



岐阜大学国際交流

NEWS Letter

56

For International Exchange
Gifu University

March 2024



吉田学長がラバト国際大学(モロッコ)を訪問

12月16日~18日



2023年12月16日(土)~12月18日(月)に吉田 和弘 学長、神原 信志 副学長、吉野 純 工学部附属応用気象研究センター長、小林 恵子 国際事業課長がラバト国際大学(モロッコ)を訪問及びラバト市等を視察しました。

今回の訪問は、2023年5月2日(火)にラシャッド・ブフラル駐日モロッコ王国特命全権大使が本学を訪問された際に、同大学との交流の提案があったことから実現しました。

同大学長への表敬訪問では、同大学の学長、副学長、学部長等18名が参加され、学生交流やエネルギー工学分野の共同研究を中心に学術交流の可能性を探り、大学間学術交流協定の締結に向けて準備を進めることを両大学が同意しました。

今回の訪問を機に、岐阜県との交流実績を基盤にした同大学との学生・研究者交流が加速度的に拡大されることが期待されます。



第2回 日印大学等フォーラム及びSTSフォーラム2023

9月30日・10月1日

2023年9月30日(土)、「第2回 日印大学等フォーラム」及び10月1日(日)、「STSフォーラム2023(科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム)第20回 年次総会」が京都市内で行われました。

日印大学等フォーラムは国立研究開発法人科学技術振興機構が主催したもので、戦略的パートナーである日本とインドの科学技術・学術における協力関係の促進、とりわけ若い人材の育成とその循環は両国の発展にとって極めて重要と位置づけられています。

第一部では、「留学促進」「人材育成協力」「産学連携」に言及した基調講演が行われ、続いて「インドからの留学生・研究者拡大のための環境整備」、「人材の流動に向けた産学連携」という2つのテーマで座談会が実施され、意見交換を行いました。

第二部では、具体的な連携・交流の実現を希望する日印の大学・機関等に対して、個別に意見交換の場が設定され、本学は、インド工科大学グワハティ校及びインド工科大学ハイデラバード校と実施しました。両大学共に今後の協力に関する具体的な教育・研究分野及びその方法について意見交換を行い、2024年3月の吉田 学長のインド訪問時に改めて議論することが確認され、質・量を十分に伴った緊密な連携に発展することが期待できる個別会合となりました。

STSフォーラム2023 第20回 年次総会は、国内外の有識者が地球温暖化など人類共通の課題を議論する会議です。

吉田 学長は、STSフォーラム2023のセッションの一つとして実施された大学学長会議に出席しました。世界各地の77大学の学長が参加し、「人類とAIが作る未来」と題して議論し、科学技術への活用、倫理的問題への対応、社会人教育を含む幅広い教育を推進することなどが共有されました。





ノーザンケンタッキー大学国際教育センター事務局長が 本学を表敬訪問

10月30日



2023年10月30日(月)に、ノーザンケンタッキー大学(以下、「NKU」という。)国際教育センター フランソワ・ルファ事務局長が本学を訪問しました。本学とNKUは、1990年10月に大学間学術交流協定を締結し、学生及び教職員の交流を行っております。ルファ事務局長は、吉田 和弘 学長を表敬訪問し、神原 信志 副学長(国際・情報・評価(副)担当)、グローバル推進機構 小山 博之 機構長、嶋 陸宏 副機構長、NKUリエゾン(連絡調整者)の教育学部 巽 徹 教授及び野々村 学務部長と懇談しました。懇談では、これまでの学生交流の成果や、今後予定される交流プログラム、岐阜・東海地域とNKUの位置するグレーター・シンシナティアエリアとの共通点を踏まえた様々な連携の可能性等について話し合いました。



岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2023

11月16日~12月8日

2023年11月16日(木)・17日(金)、12月7日(木)・8日(金)に、オンライン(Zoom)及び一部対面にて、岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2023を開催しました。

11月16日・17日に開催された「学術セッション」では、「持続可能な地域開発；SDGs(※)とその先に向けて」と題し、インド工科大学グワハティ校、国立工科大学カルナータカ校(インド)、京都大学、北海道大学、名古屋大学および本学から計10名の登壇者が、研究報告を行いました。



また、12月7日に開催された「東海国立大学機構JDPシンポジウム」では、「地球課題を解決する人材育成を目指すジョイント・ディグリー ~教育研究の国際化と地方創生~」と題し、小林 洋介 文部科学省高等教育局 参事官(国際担当)も含めた意見交換を行いました。

翌日12月8日には「産官学金連携セッション」が岐阜大学講堂で開催(オンライン同時配信)され、「岐阜大学シンポジウム」としても開催されました。「脱炭素社会実現へのグローバルな取り組み」及び「インド竹資源の産業化取り組み状況」と題したパネルディスカッションを行い、地球課題解決を目指す技術・活動報告と意見交換が行われました。また、別会場では、25社の企業・団体によるブース展示が行われ、地元企業と留学生が交流する姿も見られました。

今回のシンポジウムは、「東海国立大学機構JDPシンポジウム」が75名、学術セッションが92名、産官学金連携セッションが128名、延べ295名の参加者が国内外からありました。今後も同シンポジウム開催等の活動を通じ、JDPを中軸とした地域の国際化推進に貢献していきます。

※SDGs(Sustainable Development Goals、エスディー・ジーズ)とは、平成27年9月25日に国連総会で採択された、持続可能な開発のための17の国際目標です。



海外への留学

海外留学フェア2023秋

11月29日

本フェアは、留学に必要とされる語学力や、岐阜大学における留学プログラムに関する情報提供及び留学の促進を目的として、2012年度から開催しています。初めに、留学支援係から本学の留学プログラムや支援制度に関する説明があり、続いて、サマースクールプログラム、交換留学により留学した学生から留学経験に基づく発表、次にパロー・Vドラッグ海外研修奨学金制度、トビタテ!留学JAPAN及び学部等の短期派遣プログラムにより留学した学生が発表を行いました。

参加者は、各担当者の説明や留学経験者の体験談に熱心に聞き入り、フェア終了後には個別質問をする等、留学への関心の高さが感じられました。



海外で学ぶ



自然科学技術研究科
後藤 駿太

GU-IITG
JDプログラム



インド留学を通して

私が修士課程で参加するジョイント・ディグリープログラムは日本とインドの両方の大学から連名で一つの学位記がもらえるプログラムです。修士課程2年間のうち5か月間をインドで過ごし、講義に加え研究活動を行いました。インドでの講義の多くは学生参加型で、プレゼンテーションをする機会も多く、日本とは異なるスタイルに苦労しましたが、英語で自分の意見や考えを発信する力が付いたと思います。

世界的に勢いのあるインドという国に身を置き、その雰囲気を感じながら成長することができたというのは非常に有意義で貴重な経験でした。

世界的に勢いのあるインドという国に身を置き、その雰囲気を感じながら成長することができたというのは非常に有意義で貴重な経験でした。



Winter School Program 2023

12月6日～22日

2023年12月6日(水)から22日(金)にかけて、第7回目となるウィンタースクールを実施しました。本年は、本学とジョイント・ディグリープログラム(注)を設置しているインド工科大学グワハティ校から6名、マレーシア国民大学から2名の学生が来学しました。本年度は「日本の伝統を科学する」というテーマにて開催し、2週間という短い期間に、参加学生らは企業や日本学生との交流、研究活動、日本文化体験等のプログラムを行いました。企業との交流は、岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウムへの参加、企業理解の特別講義や企業訪問、日本学生との交流は、岐阜大学の学生や岐阜市内の高校生との交流会を実施しました。研究活動については、焼き物を分析する実験や日本の食文化に関する実験を行いました。そして、日本文化の体験としては、日本語授業受講や雅楽イベントへの参加、多治見市を訪問し、お茶や作陶を体験しました。そして、最終日12月22日(金)の閉校式では、本プログラムをとおして学んだことの発表を行いました。



本事業は大学の世界展開力強化事業の支援を受け実施しています。

(注)ジョイント・ディグリープログラム(JDP)連携する大学間で開設された単一の共同の教育プログラムを学生が修了した際に、当該連携する複数の大学が共同で単一の学位を授与するもの。

奈良・薬師寺旅行

10月28日

2023年10月28日(土)、本学留学生31名が奈良・薬師寺旅行に出かけました。当日は旅行日和となり、参加者は古都への旅を満喫しました。薬師寺では日本語ガイドのほか、英語ガイドも帯同し、留学生は興味深く話を聞き、時には熱心に質問をする姿も見られました。3時間の滞在時間はあっという間に過ぎ、もう一度薬師寺に来たいと話す学生もいました。コロナ禍で交流が持てない時間を過ごした学生もあり、この旅行は貴重な日本文化に触れるとともに、様々な国から来た学生と知り合う格好の機会になりました。



日本語・日本文化教育センター(日文センター)の取組み

十二単の着装と体験

11月15日

2023年11月15日(水)、日文センター和室において日本文化ワークショップ「十二単の着装と体験ー日本の民族衣装ー」を開催しました。

当日は、日文センターの日本語・日本文化研修留学生や社会文化プログラムの留学生をはじめ、本学に在籍する留学生や日本人学生及び教職員など、総勢36人が参加しました。参加者からは、日本の伝統文化の奥深さや美しさを堪能することができたとの感想が寄せられるなど、日本文化教育の充実につながる有意義な機会となりました。



雅楽カルチャー体験

12月13日

2023年12月13日(水)、日文センター和室において日本文化ワークショップ「雅楽カルチャー体験コンサート」を開催しました。

当日は、インド工科大学グワハティ校とマレーシア国民大学から受け入れているウィンタースクール参加学生や日文センターの日本語・日本文化研修留学生等、約40名の参加者が日本の美しい伝統文化を楽しみました。参加者からは、「日本の伝統的な音楽や衣装について知るとてもいい機会になりました」「楽しかったです。楽器の音が本当にきれいでした」といった声が寄せられました。



岐阜大学で学ぶ



日本語・
日本文化教育センター
ホイナツカ
アリツィア マリア



またとない一年を大切に

ポーランド ポーランドで、学生として日本語を学び始めた頃、「一期一会」という慣用語に出会いました。それは、二度と訪れない全ての瞬間を大切にするという意味の言葉です。それから3年後、ここ日本での留学経験を語る上で、この言葉がぴったりと当てはまるとは思いませんでした。日本にきて、四季の移り変わりの美しさ、季節柄の行事や伝統の豊かさに、「一期一会」を実感するようになったからです。その点で、文化的に豊かで自然が美しい場所は、岐阜県以外では考えられません。毎日、ポーランドに居たら知り得ない日本の唯一無二な側面に浸りながら、日本語のスキルを高める機会を得ています。





2023年度 愛岐留学生就職支援コンソーシアム 岐阜地区ワークショップ

10月25日

2023年10月25日(水)に、岐阜大学全学共通教育講義棟において、2023年度愛岐留学生就職支援コンソーシアム岐阜地区ワークショップを開催しました。本ワークショップは、愛岐留学生就職支援コンソーシアムに参画している、本学、岐阜県、岐阜県経営者協会及び日本貿易振興機構(JETRO)岐阜貿易情報センターの県内4機関が共同で開催しており、今年度で第6回目の実施となります。全体を通じて、参加した留学生から「今回のワークショップを通じて高度人材の就職に対してお互いの立場を理解し、自分の課題を見つけることができたよ機会であった」と好評を得ました。また、企業から「外国人雇用の目的や課題などを社内で話し合い、より明確にしてから来年また参加したい」、「学生の方々の日本語力、外国人へのサポートの内容など企業側が考えられることのヒントが得られてよかった」など、次へとつながるコメントも寄せられ、有意義な機会となりました。



今後も留学生と参加企業とのコミュニケーションを深め、更なる留学生の就職支援活動を展開していきます。



国際月間特別シンポジウム

10月31日

2023年10月31日(火)、脳科学者の茂木 健一郎氏、経営者の塩野 誠氏及び吉田 和弘 学長による国際月間特別シンポジウム「グローバル化は我々をどこに導くのかーChatGPT時代を生き残れ! 国際化に必要な能力は本当に英語なのか?ー」を開催しました。会場となった本学講堂では学内外から約280名が、Glocal Lesson(注)でのリアルタイム配信では約100名が、約1時間半の鼎談を聴講しました。



本鼎談は、司会のグローバル推進機構 松井 真弓 助教が学生から受けた相談「留学は就職に有利になるの?」から始まり、英語翻訳に生成AIが利用できる時代に、なぜ英語を学ぶのか、留学するのかについて話し合いました。また、本学がインド工科大学グワハティ校やマレーシア国民大学と実施するジョイント・ディグリープログラムを吉田 学長が紹介した際には、茂木氏は「多様性の国に行き、世界のトップを生む大学で学ぶことは素晴らしい経験になる」と語り、塩野氏は「エントリーシートにそうしたプログラムを修了した記載があると雇用する側としては会ってみたいと感じるし、実際に会うと他の学生との違いを感じる」と話しました。また驚異的なスピードで発展を続ける生成AIに関しても言及があり、「AIを考えることは人間を考えることである」と塩野氏が述べると、茂木氏が「もっと知識に貪欲になれ!」と立ち上がって聴衆を鼓舞する場面もあり、終始、熱い議論が交わされました。

鼎談の最後には、3者が「これからの国際社会で働くときに役立つスキル」について各自の考えを述べ、学生らにエールを送りました。Glocal Lessonでは、この鼎談の様子をオンデマンド配信しています。

本学では自然科学技術研究科(修士)、工学研究科(博士)、連合農学研究科(博士)においてジョイント・ディグリープログラムを実施しています。興味を持った皆様の出願をお待ちしています。

(注) グローカル推進機構が提供するオンライン学習プラットフォーム (<https://www.gu-glocal.com/>) (下記参照)



Glocal Lesson (グローバルレッスン)

Glocal Lessonは、岐阜大学グローバル推進機構がオンデマンド配信・対面・リアルタイム配信で提供する学習プラットフォームです。「岐阜大学の研究を知りたい!」「日本や岐阜について理解を深めたい!」「海外の文化を学びたい!」など、様々なニーズにお応えする動画を配信中です。まずは、「おすすめ講座」で紹介している配信動画からはじめてみませんか。

新規会員登録に必要な情報はメールアドレスのみです。QRコードまたはURLからGlocal Lessonホームページにアクセスしてください。(東海国立大学機構のメールアドレスで登録すると、有料会員限定コンテンツにもアクセス可能です。)

会員登録はこちら

<https://www.gu-glocal.com>



岐阜大学
グローバル推進機構

編集・発行：岐阜大学グローバル推進機構 E-mail : kokusaik@t.gifu-u.ac.jp

事務局：岐阜大学学務部国際事業課国際給務室(国際交流に関すること)

TEL:058-293-3351 E-mail : int_exch@t.gifu-u.ac.jp

岐阜大学学務部国際事業課留学支援室(留学に関すること)

TEL:058-293-2142 E-mail : direcent@t.gifu-u.ac.jp



岐阜大学国際交流 NEWS Letter

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/planning/data/newsletter/index.html>



<https://www.youtube.com/channel/UCMJkz04fsxzo3ogeNHC-P>

